

第五章 災 害

宇和町は昔から大きな自然災害の少ない地域である。大洪水で部落が流されてしまったとか、大干魃で作物が全くできなかったというような話はない。古老など宇和ほどおだやかなよいところはないとよく言っていたものである。

これは宇和町の地域が、海岸には近いが急な斜面の山地によってへだてられた内側にある海拔二〇〇呎の盆地であって、周囲の山々はほぼ均一な高さであるうえに、内側はなだらかな斜面で山くずれなどの危険箇所が少なく、肱川の上流地域であって山地はよく森林が育成されているところから、風や洪水の災害が比較的少なくなっているであろう。台風も宇和盆地を直撃するコースをとって北進すること稀なことである。

しかし、災害が全くないというものではなくて、相当の

被害を受けたこともある。特に昭和十八年夏の豪雨は各所の田畑が流失し、下宇和駅付近の宇和川のわん曲部が直線に流れて一面の川原になったこともある。また、昭和二十年九月には台風が来襲して、橋、田畑の流失、道

宇和町における気象災害（昭和38年～46年）

発生年月日	原因	被害地域	被害状況	況
S. 38. 4. 7 ～ 5. 20	長 雨	全城	水田冠水	2,481万円
S. 38. 8. 9 ～ 8. 10	台 風 9 号	"	住宅被害400世帯	33,195 "
S. 40. 9. 17	台 風 24 号	"	床下浸水21戸 冠水田60ha	3,271 "
S. 41. 9. 9	台 風 19 号	"		1,058 "
S. 43. 7. 2	豪 雨	"	床下浸水50戸、住宅破損2戸、冠水田200ha	150 "
S. 43. 8. 6	宇和島湾沖地震	"	住宅破損130戸	8,512 "
S. 44. 6. 29 ～ 7. 5	梅雨前線の停滞による大豪雨	"	床下浸水18戸 冠水田130ha	2,967 "
S. 45. 6. 15	豪 雨	"	冠水田54ha	6,829 "
S. 45. 8. 15	台 風 9 号	"		150 "
S. 45. 8. 21	台 風 10 号	"	住宅破損130戸、冠水田150ha、床下浸水50戸	14,950 "
S. 46. 5. 27 ～ 5. 28	豪 雨	"	軽傷1、住宅破損10戸	21,616 "
S. 46. 8. 4 ～ 8. 5	台 風 19 号	"	浸水家屋568戸 冠水田525ha	10,067 "
S. 46. 8. 30	台 風 23 号	"	非住宅2戸	2,637 "

路の決潰などの被害も多かった。また南海大地震のおりには永長など各所に家屋の被害もあった。災害の記録が乏しいので確実な記述はできないが、比較的この地域は自然災害の少ない土地ということはいえると思う。

近年宇和川河岸の改修工事が進み、昔の様相を変えてしまったが、今後は大洪水ということも殆どなくなってくると思われる。

宇和町は冬季降雪の多いところではあるが、昭和三十八年一月の大雪から後、年々雪は少なくて、近頃では降雪で被害が出たということがないようである。

自然災害は軽度にするには可能であっても皆無にすることはできない。「天災は忘れたころにやってくる。」という警句を忘れず、町内各所の自然災害保安に努力して、たゆまず改善に改善を重ねていくことが重要である。